

平成 26 年度 動物愛護週間中央行事実施結果

1 動物愛護週間中央行事への参加

動物愛護週間は、広く国民の間に、命ある動物の愛護と適正な飼養について理解と関心を深めるために設けられているもので、国及び地方公共団体はその趣旨にふさわしい行事が実施されるように努めなければならないことが「動物の愛護及び管理に関する法律」の第4条に定められている。

本会は、本年についても、東京都内で開催された「動物愛護週間中央行事」に、国及び東京都、台東区並びに動物愛護団体等で構成する中央行事実行委員会に主催者構成団体として参画した。

2 平成 26 年度 動物愛護週間中央行事の実施結果

平成26年度 動物愛護週間中央行事は、9月23日(火・祝)に、屋外行事を上野恩賜公園噴水池前広場で、屋内行事を東京国立博物館 平成館講堂で同日開催された。

【スローガン】「いのち輝け 人と動物の愛の輪で」

【テーマ】“宣誓！ 無責任飼い主0(ゼロ)宣言!!”

(1) 9月23日(火・祝) 11:00～16:00 屋外行事

屋外行事は、上野恩賜公園噴水池前広場にて開催された。

大テントでは、動物愛護セレモニーを始め、犬のしつけ方教室、どうぶつのふれあい方教室、〇×クイズ大会、犬の五感体験が行われ、各展示ブース・広場等では、災害対策コーナー、東京都動物愛護相談センターのお仕事紹介、こどもコーナー、ペット写真展、スタンプラリー等、各種の催しが行われた(来場者：約12,000名)。

本会は、実行委員会構成団体として、事前の各種会議に参画するとともに、インフォメーションブース、動物お絵かきコーナー、マイクロチップによる個体識別措置事業の展示を担当した。動物愛護セレモニーでは、



屋外行事会場入口のアーチ



動物愛護セレモニー



動物お絵かきコーナー



マイクロチップ普及啓発コーナー

図1 平成 26 年度 動物愛護週間中央行事(屋外行事の様子)



図2 第26回 日本動物児童文学賞表彰式での受賞者とプレゼンターの記念撮影

砂原実行委員の代理として、酒井副会長が出席した。

(2) 9月23日(火・祝) 12:00～16:30 屋内行事

屋内行事は、東京国立博物館 平成館講堂にて、以下の3部構成で実施された(参加者:220名)。

まず、環境省をはじめ実行委員会構成団体による各表彰式が行われた。本会は、「第26回 日本動物児童文学賞表彰式」を実施した。

続いて、次の4つの講演が行われた。①日本ペット環境論研究所の中塚圭子代表による、「高齢者とペットの暮らし」、②浅野明子弁護士による「法律について、トラブル事例など」、③新宿区人と猫との調和のとれたまちづくり連絡協議会の高木優治顧問による「地域猫対策のポイントは」、④東京都動物愛護相談センターの佐竹浩之業務課長による「地域猫対策って有効なの?」。

最後に、パネルディスカッション「地域猫対策」が行われた。

〔第26回 日本動物児童文学賞表彰式〕

本年度大賞受賞者である高森美由紀氏に、塚本瑞天環境省自然環境局長から環境大臣賞、酒井健夫本会副会長から日本動物児童文学大賞、小柳雅一損害保険ジャパン日本興亜株式会社団体・公務開発部第二課長から副賞が授与された。

続いて、優秀賞受賞者である松田好子氏に、酒井健夫本会副会長から日本動物児童文学優秀賞と、諸岡雅子アニコムホールディングス株式会社経営企画部主任から副賞が授与された。

最後に、もう一人の優秀賞受賞者である、くれまさかず

氏に、酒井健夫本会副会長から日本動物児童文学優秀賞と、小柳雅一損害保険ジャパン日本興亜株式会社団体・公務開発部第二課長から副賞が授与された。

日本動物児童文学大賞

「よっちゃん、ごはんだよ」 高森美由紀(青森県)

日本動物児童文学優秀賞

「ウルフがおしえてくれたこと」 松田好子(東京都)
「夢のかけはし」 くれまさかず(愛知県)

〔動物愛護講演〕

講演:「高齢者とペットの暮らし」

講師:中塚圭子氏(日本ペット環境論研究所代表)

講演:「法律について、トラブル事例など」

講師:浅野明子氏(弁護士)

講演:「地域猫対策のポイントは」

講師:高木優治氏(新宿区人と猫との調和のとれたまちづくり連絡協議会 顧問)

講演:「地域猫対策って有効なの?」

講師:佐竹浩之氏(東京都動物愛護相談センター業務係長)

〔パネルディスカッション〕

パネルディスカッション:「地域猫対策」

パネラー:高木優治氏、佐竹浩之氏、中塚圭子氏、浅野明子氏

コーディネーター:山口千津子氏(公社)日本動物福祉協会 獣医師調査員)